

## 第2回 幼保小合同研修会だより

日時： 令和8年6月11日(木) 15時～16時50分

場所： 郡山市役所 特別会議室 (対面研修)

講演：「発達に遅れや偏りがある子の支援」  
～『架け橋期の教育』の充実をめざして～

講師：元筑波大学附属大塚特別支援学校 教諭

**安部 博志 氏**

特別支援教育コーディネーターとして、1万以上の学級を巡回し支援され、発達障がいの子どものための教材や道具も多数作成されました。



昨年度に引き続き、安部先生の具体的な事例に基づいた講演が行われました。「架け橋期」が人生の7割を決める重要な時期であることから、その時期の子どもをどのように理解し、どのように支援していくべきかについて教えていただきました。保育者や教師が自分のやり方で教えてもうまくいかない場合は、その子どもの学び方に合わせて教えることが大切であると学びました。また教師にはアセスメントの力が求められており、「発達段階アセスメントシート」「困っていること確認シート」を用いた演習を通して、子どもを理解する方法を学ぶことができました。支援の方法については、成功体験に導くために子どものよい面に着目し、リフレーミングした言葉で伝えることや、分かりやすい教材教具を活用するなど、すぐに実践したいと思える内容を数多く教えていただきました。さらに、保護者への言葉かけのコツや保護者が傷つく言葉について、学ぶことができました。これらを実践することで悪循環を断ち切り、より良い支援につなげることの大切さを理解することができました。講演後には、参加者一人一人がとても温かく優しい気持ちになれたのではないかと感じました。

たくさんの教材を準備していただき、参加者は熱心に見入っていました。



90名の参加者が熱心にお話を聞いていました。

かえるカード

### アンケートより

- \*子どもたちとの関わりの中で参考にしてみたい事例が多く、特にチクチク言葉でなくフワフワ言葉を視覚化できるようにするところをやっていきたいと思います。
- \*気になること→障がいではなく、困りごとは何なのか、どんなアプローチが必要なのかを考え、学んだことを保育に活かしていきたいと思います。
- \*リフレーミングした言葉が、印象的でした。言葉の表現の仕方によって、あとは環境の工夫など教材教具の工夫で、自尊心を大切にすることなど、学びとなり、実践しやすいことを教えていただいたことが良かったです。
- \*一人一人が幸せに生きられるように、うまくいかない時も「まっいっか」「ドンマイ」「OK!」と私たちも思えるようにしていきたいと思いました。